

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	勝谷紀子	所属	東京大学先端科学技術研究センター
研究会等名称	難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 4名（うち認定心理士 1名） 非会員 2名（うち認定心理士 0名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p>本研究会では、聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分ではないという現実から生じる心理学的問題について考え、難聴者に対する心理学的研究の方向を探ることを狙いとしている。研究会の主なメンバーは、障害児教育、知覚心理学、認知心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、特別支援教育、医学などさまざまな領域で難聴の研究をしている研究者、現場で活動をおこなう実践者、医療従事者である。</p> <p>今年度においても、難聴の問題に関心を持つ研究者や実践家と多様な難聴の問題について広く意見交換と情報交換をおこなうことを目的として、研究集会を実施した。具体的には、日本心理学会第86回大会(2022/9/8-11)（オンライン開催）において、公募シンポジウム「子どもおよび若年者の難聴・聞き取り困難への支援」を開催した。登壇者は、話題提供者が小淵千絵（国際医療福祉大学）、大土恵子（大阪樟蔭女子大学）、福井芳（みみプラネット）、中島武史（兵庫教育大学）、指定討論者が佐野智子（城西国際大学）・勝谷紀子（東京大学先端科学技術研究センター、企画者・司会兼）であった（敬称略、所属は当時）。</p> <p>このシンポジウムでは、未成年の子ども、若年者の難聴や聞き取り困難への言語的支援、聴覚的支援、心理的支援、教育実践、養育に豊富な経験を持つ先生方に子どもや若年者の難聴や聞き取り困難における現状と課題について話題提供をいただいた。難聴の研究者、難聴の当事者という異なる立場から指定討論をおこなった。そして、多様な立場にある登壇者の議論から、専門家が子どもや若者の難聴・聞き取り困難の特徴や支援について知っておくべきこと、専門家だけではなく一般市民に対しても難聴・聞き取り困難の理解、当事者支援のために共有するべきことがらを議論した。</p> <p>これらシンポジウムの開催により、多様な難聴を持つ若年層への支援のあり方について有益な意見交換、情報交換を行うことができた。来年度においては、引き続き、難聴者の理解を一般に広く深め、よりよい支援を実現するために、学術大会でのシンポジウム等で広く周知し、難聴・難聴者についての啓発活動もおこなっていく。具体的には、難聴を持ちながら働く現役世代における合理的配慮やキャリアの問題を考えることなどを計画している。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
難聴者の心理学的問題を考える会				
研究集会開催日： 2022 年 9 月 8日(木)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	勝谷紀子	東京大学先端科学技術研究センター	○	○
2	大土恵子	大阪樟蔭女子大学	○	
3	福井芳	みみプラネット		
4	佐野智子	城西国際大学	○	
5	小淵千絵	国際医療福祉大学	○	
6	中島武史	兵庫教育大学		
7	※オンライン開催のため、オンデマンド動画の視聴者については不明			
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

(様式5)

2023年4月29日

日本心理学会研究会 2022 年度会計報告書

研究会名称 難聴者の心理学的問題を考える会

研究会番号 22025

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2023年3月20日	シンポジウムでの講師謝礼(1名)	¥20,000
2023年3月30日	印刷費	¥10,000
支出合計		¥30,000